

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970400566
法人名	医療法人 健和会
事業所名	グループホームふれあい天理
所在地	天理市中ノ庄町531
自己評価作成日	平成28年1月10日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先<http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	平成28年1月28日
評価結果決定日	平成28年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふれあい天理では、家にいるような感覚を味わって頂けるような関わりを意識し、入居者様の気持ちを尊重した看護・介護を心掛けています。館内からはいつも楽しい笑い声が聞こえ、ゆったりと楽しい時間が流れています。事業の開始から11年が経ち、開所当時からいらっしゃる方も数名おられます。徐々に出来ない事が増えている現状ですが、個人の能力を維持して頂くためにも手を出し過ぎず、一歩でも二歩でもご自分で歩いて頂き、出来たことを共に喜べる介護を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームふれあい天理は医療法人健和会の敷地内にある施設です。敷地内は他に病院や福祉施設が多数あり、日常的に連携が取られています。災害時や、ターミナルケアなどでも、連携がとられ、入居される利用者、家族は安心して生活が出来るようになっています。施設の中は家庭的な雰囲気の中、利用者の方はゆっくりと自分のペースで生活されており、職員もさりげない声掛けで介護されています。法人全体で職員の育成にも力を入れておられ、ステップアップ研修や、外部研修にも積極的に参加されています。研修の中で身体拘束の研修も行われ、身体拘束ゼロのケアに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあいの里の理念を朝礼時に職員で唱和し、それに基づいた関わりが出来るよう努めています。1)入居者様中心の医療・看護・介護 2)地域社会への貢献 3)研究心と向上心を持つ 4)和を尊ぶ	グループホーム独自の理念を玄関に掲示されています。毎日朝礼時に職員一同で唱和され、周知徹底されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ふれあいの里全体の夏祭りにて地域の方と一緒におでん作りをしたり、秋祭りではホームの前でお神輿を担がせて頂いたり、地域の方が関わってくださっています。	ふれあいの里の行事に地域の方が参加されています。又、近隣の高校生が職業体験に来るなど、地域との関わりを大切にされています。	今後は運営推進会議などを通してグループホーム独自で交流を図り、地域の一員になれるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいの里そのものが地域に根付いた運営を行っており、認知症サポーター養成講座などの開催などありますが、事業所の取り組みとしてはまだまだです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて日々の生活・活動を報告しグループホームの生活を知っていただいています。活発な意見交換はなく、一丸となって取り組んでいる状況ではありません。	市の職員・家族・区長・地域包括など参加され、2カ月に1回開催されています。ホームの現状報告や行事の事などを報告し、参加者からの意見も取り込んでサービスの向上に生かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことなどは電話で相談させてもらってアドバイスを頂いています。運営推進会議の他にも天理市のグループホーム交流会にも参加させて頂き、お話をさせて頂いています。	市の職員とは運営推進会議だけではなく、天理市のグループホーム交流会にも参加されたり、電話で相談するなど、協力関係が築けるように取り組まれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ふれあいの里全体でステップアップ研修があり、身体拘束について学び意識しています。玄関の施錠は夜のみ行っていますが、日中は自由に出入りできるよう支援しています。	玄関は施錠しておらず、自由に行き来される状態になっています。又、ステップアップ研修の中で身体拘束の研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉での抑制などにも目を向け、話し合いや職員指導を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前から成年後見人の利用を検討している方がおり、職員会議などで話し合いをする機会もありました。実際に行政書士の方からの研修にも参加させてもらい勉強させて頂きました。先日、後見人の利用が開始になった方がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間を以て行っていますが、1回だけの説明では不十分なこともあるかと思えます。面会時にもお困りの事などないか伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内、法人内、外部の方を招いた第三者委員会を設置しており、館内に掲示しています。また、説明を行っています。	面会時に担当の職員が積極的に話しかけ、日頃から何でも話せる関係作りがされており、意見があれば運営に反映されています。	家族会などを開き家族同士が話され内容を職員に話せる機会を作り、異なる意見等が出され、運営に反映されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回の職員会議に、年2回、個人面談を行い、意見を聞く機会を設けています。また、普段からのコミュニケーションでも話しやすい雰囲気を持って、自分たちで考えてもらえるように努めています。	月に2回の職員会議と年に2回の個人面談で、職員から意見を聞く機会を作られています。又、日頃から何でも話せる関係作りがされており、意見があれば運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能給の導入や運営目標を達成すると報奨金制度もあり、チームワークと努力が見受けられます。個々がやりがいを持って働ける環境を築いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ふれあいの里全体にステップアップ研修があり、参加できるよう勤務調整を行っています。また、外部研修にも積極的に参加する機会を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者を交えた同法人のグループホーム5カ所が集まったお食事会や、市内のグループホーム同士の交流会を持ち、刺激を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様、家族様との面談の機会を大事にし、それぞれの意向を反映できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	意向をしっかりとお聞きできるよう努めています。家族様に代わって、支援させて頂く思いであります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入居することがご本人にとって一番いいのかということをもまず考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を家族の一員のような思いで接していますが、入居者様に教えられることが多々あり、入居者様に育てられていると思っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を伝え家族様とのコミュニケーションを密にし、情報を共有しながら、家族様にできることを考え、相互から支援できるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り支援させて頂きます。家族様のご要望を聞き、お墓参りや故郷に外出をして頂いたりしています。	馴染みの方がホームを訪れたり、個別の外出支援で馴染みの場所に行かれたりと、馴染みの人との係わりを損なわない支援をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係ができていて、時折衝突も見られますが、職員は中立の立場を守りながら関わっています。また、話し相手は少なくともお手伝いにやりがいを感じておられる方もおり、尊重した関わりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際はこちらから今後も相談して頂く事が可能であることを説明しています。また、ふれあいの里内での転居や入院の場合は、面会に行かせて頂いたり、ご家族様ともお顔を合わせることもあり、その後の様子などお聞きしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の性格や生活歴に配慮してその人らしい暮らしが出来るように努力しています。	入所時のアセスメントで本人、家族の希望や意向を把握されています。又、日常の会話などでも意向の確認を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様から聴取していますが、面会の度に複数のご家族様からも情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の把握、職員間の連携に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の意向を基に目標を持ち、達成の為に状態の観察に努めています。	3ヶ月に一回カンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行っています。又、状態に変化があった場合はその都度話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体の記録と個人記録をとり、職員一人が三人の入居者様を担当し、状態の変化時、および定期的に再アセスメントを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの導入は行っていますが、他の地域資源は活かせていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診の主治医と敷地内にある病院との連携が出来ています。	敷地内の病院から定期的に往診があります。また以前からのかかりつけ医の受診もでき、通院介助もされています。敷地内の病院とは24時間連携がとれており、利用者・家族も安心して、適切な医療が受けられる体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、敷地内の病院看護師と綿密に連携を図っています。また、主治医との連絡も密にし、早期受診を心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人の病院との連携を密にとっています。奈良東病院のカンファレンスには参加し、状況把握をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に先の事も考えて頂けるように話しをしています。また、随時医師や家族様と相談しながら意向を確認しています。	終末期ケアも行われており、入所時に利用者・家族の意向を聞き、職員・医師・訪問看護師が連携を取られています。また、随時話し合いをしながら、良いケアが出来るよう、チームで支援に取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や個々の職員に指導を行い、急変に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会の設置があり、ふれあいの里全体での協力体制が出来ています。夜間想定をふまえ、年2回、訓練を行っています。	年2回夜間想定を含めた避難訓練が行われ、敷地内の施設とも緊急時には連携され、職員が駆けつける体制になっています。マニュアルや緊急連絡網も作成されています。また、備蓄もされており、月1回、法人全体で防火対策委員会も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇については、ふれあいの里全体で取り組みを行っています。ふれあいの里の接遇標語や独自の標語を作り、朝礼時に唱和しています。一人ひとりの人格を尊重し、その人らしい暮らしが出来るように努力しています。	グループホーム独自の標語を作成し、朝礼時に唱和され、職員全体で利用者の人格の尊重やプライバシーについての研修をされています。利用者に対する声かけや接し方は、自己決定しやすい対応になるよう心がけ支援されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立支援を基本とし、こちらが誘導するのではなく、ご本人に考えて頂くよう、ご本人の言葉を聞けるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望が実現するように話し合いを行っています。その日の会話からアクティビティを見つける努力もしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回散髪屋さんに来て頂き、髪を整えてもらっています。毛染めが必要な方には、敷地外の施設への訪問美容でのサービスを利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、献立・食材調達・調理全てをグループホームで行っており、買い物や下ごしらえ・調理など入居者様の出来る事は積極的に行っています。	利用者の希望も聞きながら、献立を作成され、買い物に行かれたり、月2回はお寿司や弁当などを外注し食事を楽しむ工夫がされています。食器なども馴染みの物を使用されています。利用者の方も調理や片付けなど出来ることを職員と一緒にされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、摂取量を知るために記録に残しています。栄養のバランスは献立立案時に考慮しています。水分は、コップ一杯は飲んで頂くよう最低摂取量が把握できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを実施し状態の確認をしています。ご本人に出来る所までしてもらい、後に職員が補っています。また、今年からは、往診にて定期検診を実施していただく事になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導と随時のトイレ誘導を状態に合わせて行っています。	排泄表を利用し排泄パターンを把握し職員で共有されています。排泄のサインを察知され、オムツ外しにも取り組まれ、トイレでの排泄を大切にされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・食事・水分と個人に合わせた管理と薬についても主治医と検討しています。15時のお茶の時間にはおやつに加え、寒天を食べて頂き、排便を意識しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、ユニット毎に曜日を設定していますが、時間帯も勤務時間に合わせたの設定ですが、随時本人様の希望に添い、入浴・足浴・ゆっくり入って頂けるように配慮しています。	入浴は週3回曜日や時間帯は決まっていますが、利用者の方のペースに合わせてゆっくり入浴できる工夫がされています。入浴できない時は、足浴や清拭で清潔を保たれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のリズムがつけれるように配慮しながら、状態によっては臥床を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1回づつ手渡して個々に合った服薬の援助を行っています。症状の変化の観察に努め、随時、主治医とも相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状態に合わせて個々にあった関わりが出来るように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に行きたいと言われたときは、出来る限り対応させて頂いています。近隣への散歩や天気の良い日は玄関外に出て、日光浴を日課としています。家族様職員が連携して希望する所への支援も行っていますが、頻繁ではありません。	天候の良い日は近隣に散歩に出かけたり、週1度買い物に出かけられています。気分転換に玄関先や中庭へ花の水やり、また中庭にテーブルを出してお茶を飲んだり楽しみの1つになっています。利用者・家族に行きたい場所聞き、職員も協力し行きたい場所へ出かけられる支援がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っておられる方が1名いらっしゃいますが、管理はしていません。お茶を飲みまわされた時に「お茶代」とテーブルに置いて行かれますが、後ほどお返ししています。周辺でお買い物に行くところもない状況です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いて頂いています。電話は要求があればかけて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節によって飾り物を替え、季節感を感じてもらっています。においにも気を遣っており、気持ちよく生活して頂けるように努めています。	リビングにはテレビやソファがあり、利用者の方と作った作品が飾られており、落ち着いた雰囲気です。居心地のよく過ごせる空間になっています。廊下の奥にはベンチがあり一人で過ごせる空間にもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座りテレビを観たり、自由に行き来できるように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の物品はカーテン以外は家族様に準備して頂いています。馴染みのある物を持ってこられたり、少し寂しい場合は、こちらから家族様にお声がけさせて頂いています。	居室への持ち込みの制限はなく、ベッド・畳などどちらでも対応でき、馴染みの品が持ち込まれています。また、家具の配置も利用者・家族と相談され、その人らしく過ごせる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	他の入居者様との関係性などを考慮しながら自立支援に努めています。		